



浜谷豊美町長

対談

復興から 階上を より階上らしく。

浜谷豊美（はまや・とよみ／階上町長）

内城美名生（ないじょう・みなお／ふるさととはしかみ会会長）

*平成二十三年十月十七日収録

ンテアで手伝ってくれました。夜が明けて現場を見に行くと、案の定、悲惨でした。でも、わが町は復旧が早かった。犠牲者が出なかったのが幸いだったし、翌週の三月二十日の日曜日、地域の人がちがみなどで出てがれきを片付けました。被災の前に自主防災組織ができた

ばかりだったので、その行政区の代表者が招集して、建設業者と一緒にやってやりました。とにかく道路を確保することから始めて、だいたい着きました。電気は二三日後に復旧しました。

内城——東京にいる我々は気だけでもむような状況だったので、間もなく会報で、港の底が見えるくらい水が引けていたと知って、町民の方々もどんなに恐ろしい目に遭ったのかと思いました。漁船が二四隻も海にさらわれたという事で、生活の場を失った。一瞬は心が折れてしまうようなこともあったのではないかと思います。今日、大蛇漁港などを見て回ると、よく立ち直ったなと思います。

我々、「ふるさととはしかみ会」としては、みんなで少しでも応援しようではないかと義援金を募りました。そして、町民の方が一番力を入れている「いちご煮祭り」が中止になるという話でしたから、それなら東京でやろうと、急きよ七月二日にやることになったのです。これで少しは田舎に元気を送れたかなあと思っています。

浜谷——町では、七月三十一日に復興市を開催しました。これも「ふるさととはしかみ会」の方たちが、階上のことを思ってくれていることに、我々も頑張らなければと発奮したのです。

います。

浜谷——横断ウォークでは私も登っていますが、健康づくりにはちょうどいい山ですから、そういう人たちが、ただ登って下りるのではなくて、もう少し滞在できるような感じにできればいいですね。

内城——八戸圏域定住自立圏構想で、階上町は八戸市・南部町・三戸町・田子町と共にグリーン・ツーリズム推進事業に取り組むことになっているのですが、階上のいいのは農村体験だけではなくて、漁村とタイアップして、グリーン・ツーリズムとブルー・ツーリズムが一緒にできるという強みもあると思うのです。

浜谷——青森県自体も総体的にグリーン・ツーリズムの利用者が増えてきて、グリーン・ツーリズムに対する期待感も出てきています。今のところ教育旅行と称して、子どもたちの受け入れが多いですけども、ゆくゆくは首都圏の一般の方、あるいは外国人にもグリーン・ツーリズムを利用してもらうという話がされています。首都圏向けとなれば「ふるさととはしかみ会」の人たちの口コミ等により、またグリーン・ツーリズムにも、という話になってくるかと思うので、ぜひご協力いただければと思います。

内城——今、首都圏で行われる物産

内城——東日本大震災では大変でしたね。しかし、いち早く行政区や漁業部会の皆さんによって復興の輪が広がっていることを知り、階上の結の心が健在で嬉しく思っています。

浜谷——その日は、ちょうど三月議会定例会の開会初日でした。午前中に開会して、午後二時四十六分、私と建設課職員と三人で町長室で打ち合わせをしている時に揺れました。状況把握をしながら、三時には庁内に対策本部を設置し、状況調査をしなければとすぐに動きました。とにかく津波警報で避難させなければならぬ。運悪く防災無線がちょうど切り替えの工事中で使えないので、海岸線は消防車のサイレンを鳴らして緊急事態を知らせ、線路より上まで上がるよう伝えました。情報が入ってこないのが我々にとっては一番の苦痛でした。私も避難所を回りましたが、避難している人たちも協力的だったし、地元の人たちもボラ

内城——国からの支援の意味もあって、環境省が「三陸復興国立公園」（仮称）の再編構想を明らかにしました。この中に階上町が含まれていますね。

浜谷——三陸リアス式海岸の北三陸という位置付けになりますが、手がかけられていない貴重な残された自然だと思えます。八戸市の蕪島から福島県相馬市の松川浦まで、南北三五〇キロを想定した「三陸海岸トレイル（長距離歩道）」を造ろうという国の遠大な計画があるのですが、これは非常に面白い。

また、町民有志による階上岳横断ウォークが行われていますが、階上岳から海岸まで一体となった整備をして、PRしていければとも思っています。内城さんご出身の田代では、「せせらぎウォーク」と称して田代川沿いに山すそを歩くイベントをやっています。そこからも階上岳に登る登山道があります。

内城——「せせらぎウォーク」の途中に岩がありましたけれど、僕らが子どもの頃は川をせき止めて、その岩から飛び込んでもいいほど水量があったのです。昔はサケも上ってきましたね。今もホテルがあるみたいで、「ほたるまつり」をやっていますが、まだまだ水がきれいなのですね。

浜谷——階上岳は階上町だけでなく八戸市民の方々からも、ふるさとの山

復興途上の大蛇漁港で
浜谷町長（左）と内城会長



のように慕われています。今、整備している旧登切小学校の校舎を、ソバをメインにした交流の拠点にしようと思っっていますが、あの辺からも遊歩道として上がっているようにするとか、登山口と一体にして、今後、誘客できるように、多目的に利用できる公園も付帯して整備できればと考えています。

内城——本格的な登山ではなくて、低山トレッキングに傾合いの山かと思



内城美名生会長

展などのイベントのお手伝いは、極力「ふるさとしらかみ会」だけでもできるようにやっつけていこう、というのがあります。それと、いろいろな特産品、海産物等の宣伝をしたい。いろいろな団体の会合に顔を出し、階上という名前が分からない人もいますから、町名入りの半纏はんてんを着て行く。それはすでに三、四回やっています。まず、ふるさとをもっと宣伝していこうというのがあります。

町の資料を見ていたら、階上の畑の耕作面積が二割以上減っていますね。階上に来て農業をやりたいという人もいるのではないかと思います。そういう人をもっと受け入れる宣伝など、「ふるさとしらかみ会」を通じてPRをしてほしいなと考えています。

浜谷——最近の経営形態を見ると、町内でも建設業者とか、そういう人たちが農業に参入しています。特に今年はソバの作付面積が倍になりました。発想の転換で、経営として見るという必要性があるという気がします。

内城——ある漁業関係の雑誌を見ていたら、二〇〇九年度の日本の漁業者の平均年収は二五〇万円。ところがノルウェーでは九〇〇万円。日本では七五パーセントが流通コストに消えており、これは「漁協」の構造問題にあるとも言われ、漁業者にとってこれま



寺下観音を訪ねて

対談 復興から 階上を より階上らしく。

での漁業のやり方では、すでに時代に合わなくなってきたと記事にありました。今後はスケールメリットを出すような大きな転換の時期を迎えているのは階上町も例外ではないのではないのでしょうか。

浜谷——今後はある程度、組織も施設も含めた拠点化ということも考えていかないと駄目でしょう。新しい資源を活用していけるように、漁協の組織だけではなく、振興協議会を作ってやっつけていこうとしています。

内城——私はふるさとを離れて四五年経つのですけれども、たまたま私が還暦の時に、県人会が六〇周年で、その時初めて県人会に行つて、町長にお会いしました。そこで町長が「ふるさと会」を立ち上げたいと言うので、では、何かお手伝いしましょうと。それから三年ぐらいいして、やるぞとなった。メンバーを見たら結構いい企業にいら

っしゃる方も多くて、現役としての立場での強みを生かして何か具体的にやっつけていけば、ふるさとの役に立つのではないかと思いました。もちろん会員の懇親会も大切ですが。

浜谷——私は内城さんとの出会いは運命的だと思えますよ。県人会の場で初めて会って、いろいろ話をしている中で、還暦ともなれば、誰しもふるさとを帰郷を指向する思いになってくるのかなと感じました。その時に、階上出身の人たちの接点になって、よりどころになつていけるような橋渡し役、最初はそんな思いでした。町はどういうふうに関わりながら発展していったらいいか、という思いで発足したのが二〇一〇年の十一月二十日です。

その四カ月後に震災に遭い、会員の皆さんからの支援をいただき、強い絆に心打たれました。今後は六次産業化を基本とした町を目指していこうと思つていますが、一次、二次で生産・加工を、そして流通・販売に関わる三次の部分で「ふるさとしらかみ会」の皆さんに役割分担をしていただいて、円滑に連携していくようにしていきたい。「ふるさととは遠きにありて思うもの」だけではなく、今は心のつながりを身近に感じている時代だと思います。皆さんと共に「新しいふるさと」づくりができればと思います。